

【学術論文】

1. CHIDA Tetsuro, "The Relationship between the Kyrgyz SSR and the Center in the Middle Khrushchev Period (1957-61) Based on Materials from Four Archives in Moscow and Bishkek," in *Central Asian Studies Review*, Vol. 6, No.1/2, 2007, p. 15-20.

2. 地田徹朗「戦後スターリン期トルクメニスタンにおける運河建設計画とアラル海問題」『スラヴ研究』56号、2009年、1-36頁。

(論文リンク：<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicatn...>)

3. 地田徹朗「多民族領域帝国ソ連における地域・空間認識—戦後スターリン期を中心に」『地域研究』第10巻第2号、2010年、109-130頁。

【その他業績】

1. 地田徹朗「ソ連時代の中央アジア史研究のためのモスクワ公文書館・図書館案内」『日本中央アジア学会報』第3号、2007年、30-39頁。

【学会報告】

1. 地田徹朗「トルクメニスタンにおける運河建設計画とアラル海問題」ロシア史研究会大会（2007年度）、東京、2007年11月11日。

【研究会報告】

1. 地田徹朗「イスハク・ラザコフとその政策：フルシチョフ時代中期の連邦中央・共和国（クルグズスタン）関係についての一考察（1957-1961）」北海道中央ユーラシア研究会（第64回例会）、札幌、2007年7月21日。

2. 地田徹朗「フルシチョフ時代の国民教育改革及び党学校改革の持つ意味：主にクルグズスタンを事例として」共同研究「社会主義的近代化の経験に関する歴史人類学的研究」研究会、吹田、2007年12月15日。

3. 地田徹朗「ソ連時代トルクメニスタンにおける運河建設計画について：イリ川開発研究への応用を視野に入れながら」総合地球環境学研究所イリプロジェクト研究会（第3回）、京都、2007年12月22日。

4. 地田徹朗「多民族『領域』帝国ソ連における地理学と空間・地域認識」北海道大学スラブ研究センター21世紀COE総括シンポジウム、東京、2008年1月25日。